

# 証券界にいるあなたのための信用組合

## ―東京証券信用組合と証券界

八尾 和夫

### 【信用組合とは】

日本唯一の証券界専門の金融機関、東京証券信用組合です。

昨年、東証ペンクラブに入会させていただきました。初めての寄稿となりますので当信用組合の事業内容などについてご紹介いたします。

金融機関と言えば一般的には「〇〇銀行」がイメージされますが、銀行が「株式会社」であるのに対し、信用組合は、信用金庫・労働金庫・農業協同組合などと並び「協同組織金融機関」という銀行とは異なる所有形態を有する金融機関です。協同組織金融機関は、

初期には、東京証券取引所の地下の購買部（本屋、洋服屋、電気屋など）を利用する人たちが、現金ではなく、〆つけで商品を購入するのに当信用組合の口座の利用が便利で大変喜ばれたという逸話が残っています。

その後、当信用組合の店舗は3度の移転を経て平成26年（2014年）9月から、現在の東京証券会館3階に店舗を構えています。

### 【東京証券信組の事業内容―貸出】

当信用組合の最も基本的な業務は証券会社に対する法人融資ですが、一般的な事業資金や設備資金を長期で融資するというかたちではなく、証券会社がお客さまとの金融取引の過程で生じる資金の出入りの変動をならす短期の資金繰り融資がメインとなっています。たいはい返済原資がはっきりしていますので、無担保での億円単位の融資が大半を占めています。時には朝一番の融資申込みに即断即決で実行することもあります。こうしたことが可能になるのは、平素から当信用組合と組合員で

組合員、会員などと称される仲間によって、相互扶助の精神に基づき運営されています。その中でも信用組合は、①特定の地域を営業エリアとする「地域信用組合」、②同じ職場の仲間を対象とする「職域信用組合」、③同じ事業を営む業界を基盤とする「業域信用組合」の3つに大別することが出来ます。東京証券信用組合は、証券界およびその関連業界という限定した業域で事業体や個人を対象に金融事業を展開する業域信用組合の一つです。

### 【東京証券信組の始まり】

東京証券信用組合は遡ること70年前の昭和30年（1955年）6月、東京証券取引所内で産声をあげました。戦後10年、日本経済が拡大の緒につき資金需要が強まる中、証券界自らの力で金融機関を設立し証券金融の順便化を図ることを主目的に、証券各社および関連業者、東京証券業協会（現日本証券業協会）、東京証券取引所、日本証券金融株の出資により、その総意に基づき創設されました。スタート

ある証券会社の間で密接なコンタクトを保ち、財務状況などについて肌理細かな情報交換を行っているからです。

もう一つの融資の柱は、証券会社のお客さまである個人投資家向けの証券担保ローンです。担保証券の価格は当然変動しますので、厳格な掛目管理に努めています。稀には市場における担保処分などに当たっては職人芸的な繊細な対応も求められます。

また、最近取扱件数が急増しているのが、ストックオプション行使資金の融資です。利便性のよさを評価いただき、この種の融資としてはおそらく当信用組合がトップシェアを誇っています。

このほか、証券界および関連会社の役員向けに、一般向けよりも低金利でカードローンや教育ローンなどの個人融資も扱っています。高金利からの借換えによる可処分所得の増加というかたちで、従業員の皆さまの福利厚生面でお役に立つことを旨としています。

## 【東京証券信組の事業内容——預金】

一方、預金につきましては、通常の店頭預金のほかに、証券各社から顧客分別金の再預託先として大口の預金を受け入れてあります。最近でこそ、金利のある世界が戻りつつある中で、預金受入れに前向きな金融機関も増えて来ましたが、当信組では超低金利の異次元緩和の時代も、一貫して当信組の経営体力の許す範囲で相応の金利を付利して大口預金を受け入れることに努めてきました。融資のみならず、証券界の預け入れニーズに応えることも業域信組として果たすべき重要な任務と認識しており、今後もうこうしたスタンスを貫く方針です。

## 【これからも証券界のお役に立つために】

当信組が長く証券界のお役に立つ金融機関であり続けるためには、証券界の方々と密接な対話を積み重ねる中で、証券界の日々変貌するニーズを的確に対応する、そして当信組が提供する金融サービスの高度化・多様化に

## 【地域ととも】

地域とのかかわりを大切にするのは信用組合の重要な役割です。

当信組は10年前に、現在KABUTO ONEが聳え立つ地から、茅場町の証券会館3階に店舗を移転しました。この10年間における兜町茅場町の変貌には目を見張るものがあります。当信組では、日枝神社の例大祭で御神輿を担ぐなど地域の伝統的な行事に参加する一方、「Jazz EMP」証券会館屋上の菜園活動への協賛、盆ダンスやお餅つき等の季節行事への参加など、新しい地域活動にも積極的に取り組み、微力ながらも兜町茅場町の街興しに貢献できるよう努めています。また、その模様をインスタグラム、フェイスブックなどSNSを通じて発信しています。

このほか、資産運用立国に向けて国全体が動いている中で、同じ東京証券会館に拠点をもち、女性の金融リテラシー向上活動に取り組むコミュニティー「きんゆう女子。」と連

努め、その内容をご理解いただくことが不可欠と考えています。証券界のお役に立ち、その結果として当信組が適正な利益を挙げ、事業継続が可能となる、昨今「顧客本位」が強調されていますが、当信組にとってはあまりにも当然の創業以来の基本理念です。

また、既存の証券会社だけでなく、新しく創業される事業者との取引拡大にも取り組んでいます。最近は「スタートアップ」といった言われ方をしますが、そもそも創業支援は信用組合が果たすべき基本的役割の一つです。兜町茅場町にはスタートアップ企業の集積地になっているFiNGATE(平和不動産(株)運営)があります。その入居者の資金繰りなどに関するご相談に応じることも、当信組のこれからの重要な役割と考えています。最近ではそういう中から初めて当信組の組合員が生まれました。今後このようなかたちで組合員が増えていくことを願っています。

携し、その活動をサポートしています。その縁で、昨年は「きんゆう女子。」との連携活動の様子がNHK「クローズアップ現代」や「おはよう日本」でも取り上げられました。

金融機関ですので「仕事は固く」、しかし「頭は柔らかく」社会と接する！これをモットーに、東京証券信用組合はこれからも前へ前へと進んでいきます。

(東京証券信用組合 理事長)